

# 伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

平成24年10月  
九州大学新キャンパス計画専門委員会  
福利厚生施設WG

## 1. 調査の目的

伊都キャンパスで勉学している学生のキャンパスライフの状況等に関する意向調査を実施し、その結果を基にして、伊都キャンパスにおける学生生活支援施設（食堂・課外活動施設等）の運営及び学生寄宿舍の整備等への活用並びに周辺地域での学生用宿舍の建設促進を図るためにアンケートを実施するもの。

## 2. 調査対象

平成24年5月現在、伊都キャンパスで勉学している学生

- ・ 全学教育（教養教育）を学んでいる学部学生
- ・ 理学部（数学科）、工学部及び21世紀プログラム課程の学生
- ・ 比較社会文化学府、数理学府、工学府、システム情報科学府、統合新領域の学生

## 3. 調査期間

平成24年6月18日（月）～平成24年7月20日（金）

## 4. 調査方法

Web上で無記名によるアンケート調査

## 5. 回収結果

- (1) 対象者数 9,417人
- (2) 有効回収数 567人（回収率 6.0%）
- (3) 回収内訳
- |      |             |      |             |
|------|-------------|------|-------------|
| 学部学生 | 396人（69.8%） | 修士課程 | 130人（22.9%） |
| 博士課程 | 35人（6.2%）   | 研究生等 | 2人（0.4%）    |
| 無回答  | 7人（0.7%）    |      |             |
- ※内、外国人留学生 61人（10.7%）
- (4) 回答者の性別
- |   |     |   |     |     |    |
|---|-----|---|-----|-----|----|
| 男 | 66% | 女 | 33% | 無回答 | 1% |
|---|-----|---|-----|-----|----|

## 6. アンケート回答結果の概要

### (1) 通学方法について

- ① 伊都キャンパスでは、徒歩、バス、自転車、バイクでの通学者の割合が高い。
- ② 公共交通機関の利用は、男子学生より女子学生のほうが多い。
- ③ エコルカードの利用割合が23.8%で一番高く、次いで、定期券が13.2%で、九大線割引回数券の13.1%である。

### (2) 通学時間について

- ① 伊都キャンパスでは、通学時間が30分未満の学生の割合が56.6%である。このことから、キャンパス近郊（福岡市西区・糸島市）に居住している学生が多いことが分かる。
- ② 通学時間が1時間以上の学生は24.5%であり、福岡市西区並びに糸島市以外からの通学の方が多くの時間を費やしている。
- ③ 公共交通機関の利便性向上についての要望として、夜遅くまでのバス運行、平日並びに土日祝におけるバスの充実及び鉄軌道系の導入を要望する学生の割

合がそれぞれ24%以上となっている。

(3) 住居について

- ① アパート等（学生寄宿舍を含む。）に居住する学生の割合は68.3%であった。また、自宅等に居住する学生の割合は28.4%であった。
- ② アパート等（学生寄宿舍を含む。）に居住する学生の割合は、男子学生が72.5%、女子学生が60.2%で、男子学生の方が高かった。

(4) 部屋代（1ヶ月）について

- ① 4万円以上5.5万円未満の学生の割合は、37.2%であった。
- ② 外国人留学生は、4万円未満の割合が47.5%で、家賃なしと合わせると全体の60.7%となり、部屋代に経費をかけていない。

(5) キャンパス移転に伴う転居について

- ① 45.9%の学生が既に転居を完了していると回答している。転居しないと答えた割合は42.9%となっている。
- ② 転居した又は転居を希望するエリアは、福岡市西部（周船寺駅周辺）が22.6%で最も高く、次いで、福岡市西部（九大学研都市駅周辺）が22.3%となっている。
- ③ ルームシェアタイプの住居への入居（転居）については、「検討しない」と答えた割合が83.6%であり、「希望する」「金額次第で希望する」は、16.4%である。

(6) 学生寄宿舍ドミトリーへの入居申請について

- ① 入居を申請した割合は、16.9%である。  
男女別では、男子学生のうち17%が、女子学生のうち16%が申請している。  
また、外国人留学生は36%が申請したと回答しているが、留学生以外の申請者は15%と低い。
- ② 入居申請の理由については「経費が安い」が63.4%で一番高く、次いで「大学に近いため」が22.8%となっている。

(7) キャンパス生活について

- ① 伊都キャンパスでの学生生活に「非常に満足している」及び「満足している」割合は37.6%である。また、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は29.1%である。
- ② 男女別では、「非常に満足している」及び「満足している」割合は、男子学生34.1%、女子学生44.6%であり、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、男子学生33.3%、女子学生21%となっている。
- ③ 外国人留学生は、「非常に満足している」及び「満足している」割合は36.1%、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、31.1%となっている。
- ④ キャンパス周辺に必要な施設については、「娯楽施設」が363件で最も多く、次いで「飲食店（レストラン等）」が362件と多く、昨年に比べ、娯楽施設の要望の増加したことが分かる。
- ⑤ 自動車入構の有料化の大学生活への影響については、「支障がある」は21.5%で、「支障がない」が70.0%となっている。
- ⑥ キャンパスでの食事について、「主に大学内の食堂を利用している」が45.9%で最も高かった。また、「ほとんど利用しない」は12.7%であることから、90%近くの学生が大学構内の生協食堂等を利用していると推測できる。
- ⑦ 移転して良かったことには、「自然環境が良い」が40.6%で最も高く、次いで、「静かな環境が良い」が38.4%であった。